

学校評価シート（自己評価）令和3年度分

ひさみ 幼稚園

1、園の教育目標

子どもたちに豊かな環境を保障して、子どもたちが環境との出会いの中で、驚いたり、感動したり、発見したり、考えたり自らの興味や関心の要求の質を高め、豊かなあそびや仕事のある生活を展開し、人間としていちばん大切な生きる力を身につけられる保育を目指している。

2、具体的な目標や計画

幼稚園の教育方針を教職員全体で共通理解を図って保育の質を高めていく。園内研修の定期的に行い、教職員間で相互理解と協力体制を整え、幼児理解と適切な援助方法を学ぶ機会を設ける。幼稚園の特色である動物飼育や自然遊びに継続して重点を置き、よりよい環境や設備を整えながら、子どもの心身の健やかな成長につなげていく。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
保育者の資質向上	A	保育者全員が現在の保育で重さが置かれている「子どもの主体的・対話的で深い学び」を意識しながら、より専門性をもって保育に臨んでいた。また、子どもたち一人ひとりにたくさんの愛情を注ぎながら向き合う姿も多く見受けられた。さらに個々に外部の研修会に参加し、その振り返りを園内研修を通じて伝達し合うことができた。園長・副園長を始め主任や担任、フリーの間で十分に情報交換もでき、お互いに技術や意識を高め合うことができた。
新型コロナウイルス感染症対策	B	昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策としての安全面、健康面、衛生面を強化した。特に手洗いやうがい、消毒、マスクの着用、検温の生活習慣を徹底し、換気などの配慮を行った。また、保護者の出入りを最低限度にして3密を満たす行事の中止や縮小した。その成果もあり、1月中旬までは順調だった。しかし全国の感染者が急増した1月末に園内でも感染が広がり、2月上旬に休園するに至ったことは反省点となる。そこから、パーティションや机を増加したり、ホールで給食をとるクラスを作ったり、さらに感染対策を強固なものにした。その甲斐もあり、再び増えることはなく、卒園式も無事終えることができた。
		まず防犯対策として誘拐や不審者などに対処するため、保護者証（名札）を導入し、送迎時やバスの停留

安全教育の強化	A	所で首にかけてもらうことにした。外部の訪問者や課外教室の型にも名札をお願いし、セキュリティ対策をとってきた。また、災害や不審者対応マニュアルなどを整備したり、避難訓練で子どもの意識を高めたりするなど安全教育も強化した。
子どもの発達と環境整備	A	子どもたちが遊び込める環境を作ることに努めた。三輪車、二輪車などの新しい遊具を整えたり、新しい土や砂を敷いたり、園庭の既存の遊具を改良したりするなど物的環境を充実させた。その結果、子どもたちの遊びの幅が広がり、熱中して遊ぶ姿が多く見られ、心や体の発達を促進させることができた。
特別支援教育	A	先生たちが発達支援に興味関心をもち、園で購入した書籍やテキストを活用することができた。また、絵カードなど視覚的教材や隙間時間に使うアイテムをフリーの先生が制作し、担任と協力しながら的確な援助につなげることができた。就学前は小学校と子どもの引継ぎ会を設け、情報伝達を綿密に行うことができた。

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
A	<p>今年度も新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの保育になった。手洗い・うがい・消毒・マスクの着用・検温など徹底し、換気などもこまめに行った。園行事の中止や縮小も余儀なくされたが、子どもたちの遊びの質や心身の発達を促進したいという思いが強く、色々と工夫しながら保育や行事を実践することができた。2月上旬に感染が園内に広がってしまったことは大いに反省する点となったが、その反省を生かして、その後は対策を徹底して感染を防いできたことは評価に値する。</p> <p>コロナ禍でも教職員一人ひとりが、子どもの命の尊さや保育の楽しさを感じ、主体的で対話的な保育を展開できた。園長・副園長が資質を高めることの重要性を唱えたことで、研修会にオンラインで参加したり、教材研究に努めたりして、保育者一人ひとりが資質の向上しようとする姿勢が見られた。さらに保育者間の情報交換を密にしてきたことで、園全体としての保育力も上がったと思われる。</p> <p>制限のある中であつたが、ひさみ幼稚園が大事にしている自然豊かな環境の中で、主体的で思いやりのある子どもの育成は十分成し遂げたと言える。新たな遊具の導入や環境整備をできたことも大きかったと思われる。また、その背景に保護者の理解や協力があつたからこそ、自園らしい保育が達成できたと思われる。保護者会の役員の方々を中心として、楽しい催し物ができたことも自園ならではの魅力であると感じた。</p>

	<p>今後はさらなる保育者の資質向上や働き方改革、家庭や小学校との連携など課題は多いと言える。その一部として ICT 化を進める必要があるだろう。その他にもこれからも様々な社会状況の変化に応じながら、適切な保育を実践していきたい。そして「瞳がキラキラ元気で優しいひさみっ子」の育成に力を注いでいきたい。</p>
--	---

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育者の専門性の向上	<p>ここ数年、保育者全員の保育力が高まっている傾向にあるので、さらなる資質の向上を目指していきたい。園内外の研修会、保育現場での実践経験、保育教材の勉強、保育者間の情報交換を活かして、保育者としての専門性や能力・良識・適性を高められるようにしていきたい。</p>
I C T 化の促進	<p>昨今保育業界で推進されている ICT 化を取り入れていきたい。タブレットやスマートフォン、PCなどをツールとして保護者への連絡を行うことで、双方のやりとりの円滑化が期待される。また園児名簿や保育指導案、指導要録、日誌、個人記録なども作成しやすくなり、先生たちの仕事の効率化にもつながる。さらにバスにGPSを搭載して運行状況を知らせる機能も使用して利便性や安全性を高めたい。</p>
新型コロナウイルス感染症対策	<p>新型コロナウイルス感染症対策として、引き続き安全面、健康面、衛生面をより強化していく。特に新入園児は手洗いやうがい、マスク着用、消毒、換気を早めに習慣づけていきたい。また、保護者の出入りの制限や、3密を満たす行事の中止や縮小をする必要がある。ワクチン接種の動向にもよるが、感染者の状況など東松山市保育課と連絡を取り合い、柔軟かつ迅速に対応していきたい。</p>
新しい保育計画と質の高い保育実践	<p>教育課程や保育年間計画を見返し、新しい保育方法を導入したい。「サークルタイム（子どもによる話合いの時間）」を積極的に設けるなど、子どもの発達がさらに期待される方法を取り入れていく。また、行事の在り方も子どもの興味関心に添ったテーマを設けるなどして、今まで以上に対話的で主体的な保育を展開していくことを目標に掲げていきたい。</p>
安全管理	<p>園庭を含めた敷地が広大なため、引き続き安全面での管理が必要不可欠となる。毎日の環境整備や掃除時の点検、学期に1回の定期点検を綿密に行い、予め危険を回避できる体制をとっていきたい。保育中も子どもがいる園庭には必ず保育者がいるような状況を作り、危機管理を徹底していきたい。</p>

学校評価シート（令和3年度分 園関係者評価）

ひさみ幼稚園 学校関係者評価委員会

日時 令和 4 年 5 月 14 日（土）

18:00 ~ 19:00（時間）

出席者 評価委員 保護者 学校評議員

地元企業関係者

大学教授（保育科）

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

- ・目標は「環境を通しての教育」を重視している点が、幼児教育として極めて妥当性が高いと思われる。
- ・目標や計画は、子どもの心身の健やかな成長・発達のために保育の質を向上しようとする意図があり、適切なものとして認められる。
- ・評価項目の設定も、保育者の資質の向上や保護者との連携、新型コロナウイルス感染症対策等を取り入れており、教育の根幹と現在の社会状況に合わせている点は適切である。

2. 評価結果の内容は適切であったか

- ・保育者の資質向上に重きを置いており、主体的で対話的な保育の実践に努めようとしているところは近年の幼児教育の課題を理解していて、とても良いと思われる。
- ・子どもの発達と環境整備に主眼を置き、ただ遊ばせるだけではなく「遊び込める環境」を構築しようとしている点は評価に値する。物的環境の整備には費用もかかることだが、子どもの発達のために惜しまずに投資するところも良い点である。
- ・新型コロナウイルス感染症対策に重きを置き、毎日の感染対策を長いスパンで取り組んでいる点は不安や負担が大きかっただろう。また、行事の開催工夫し、コロナ禍でも子どもの健全な発達を促進しようとしたと思われる。2月に園内で感染が広がり、休園になったことは、全国的にも最も感染者数が多かった時期であり致し方ないであろう。それよりもそれ以後、さらに対策を強化して、感染を抑えたことが評価できる。
- ・安全教育を強化してきた点も、昨今の子どもが犠牲となる事件が多いので適切である。安全対策は保護者が安心できる要因になると思われる。
- ・特別支援教育を重視した保育を行っているところも魅力の1つである。東松山市内の幼稚園が発達に遅れがある子どもをあまり積極的に受け入れていない中、多くの対象児を受け入れてインクルーシブ教育を実践している点は評価に値する。人材の確保や教材準備など問題も多いと思うが、引き続き頑張してほしいところである。

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

- ・各項目ともに、社会状況や幼児教育の流れを分析し、取り組むべき課題がしっかりと挙げられる点が望ましい。
- ・新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、感染対策に配慮している点は継続して欲しい。
- ・ICT化など保育業界のキーワードをしっかりと取り入れている。

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

- ・教員の資質の向上は、保育力を高めるうえで最重要課題となるので、このまま継続して欲しい。
- ・今年度も新型コロナウイルス対策が必須となるので、感染対策を徹底して欲しい。また、カリキュラムや園行事などを変更する柔軟性が必要となるであろう。
- ・ICT化は保育業界にも浸透しているので、早期に取り掛かるべきである。保育者の仕事を効率化にもつながり、保護者の利便性も高くなるはずである。
- ・特別支援教育に力を入れる点は評価が高い。積極的に障害児を受け入れる点いいが、健常児とのバランス比率は大切である。入園希望者が集中した際、断る勇気も必要となる。また、それ相応の人材確保や教材準備が課題になるだろう。
- ・豊かな自然環境を生かした環境構成は、園の特色でもあるので今後も尽力して欲しい。